

生物多様性

地球温暖化問題が国際的な重要課題となり、気候変動枠組条約、生物多様性条約が署名された国連環境開発会議(地球サミット)が開催されてから今年で20年が経過しました。「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」(2012年6月開催)を契機に、地球環境や生物多様性の保全に対して、企業の果たす役割がより一層求められています。

日本経団連による生物多様性宣言の中に資源循環型経営の推進が謳われるなど、日本国内でも各企業における取り組みが求められています。古河機械金属グループでも温暖化ガス排出量の削減、省資源など事業活動に伴う生態系への影響を減らす活動を推進するとともに、年1回開催している「環境保全業務担当者会議」の参加メンバーである環境保全担当者を通じ、各工場・各所において生物多様性に配慮した事業活動を行うよう周知しています。

第3回「足尾さくら植樹会」を開催



当社グループ独自の緑化活動として足尾地区の社有地に桜の苗木1,000本の植樹を目指す「足尾さくら植樹会」を結成し、2009年3月に第1回の植樹会を開催しました。翌2010年3月に第2回を開催、2011年は東日本大震災の影響により中止となりましたが、3回目の「足尾さくら植樹会」を2012年3月に足尾製錬所近くの愛宕下地区で開催し、当社グループの従業員とその家族を含む67名が参加しました。

当日は小雨模様の天候でしたが、参加者は雨に濡れながら3種類(思川桜、大島桜、河津桜)、60本の桜の苗木を植樹しました。これまでの累計植樹本数は195本です。

参加者は古河掛水倶楽部での昼食後、希望者を対象に同倶楽部と2011年10月に一般公開を開始した掛水重役役宅の見学、当社足尾事業所従業員の案内による足尾製錬所跡地の特別見学会を実施しました。当会は今後も継続して実施していきます。

旧久根鉦山跡地におけるホタル再生活動

旧久根鉦山跡地(静岡県浜松市天竜区)周辺は、以前はゲンジボタルが多数飛び交い、クリスマスツリーのように樹木が輝いていたのもあったそうです。この地域にゲンジボタルを再生しようと数年前から計画し、地道に活動を行っています。



2009年度には数匹だったホタルの光は、年々順調に増えて

おり、2011年度にはさらに多くのホタルの光を確認することができました。ホタルの生育にはホタルの幼虫のエサであるカワニナ(淡水域に生息する細長い巻貝)が生息する環境が必要です。そのため、カワニナの稚貝がたくさん生まれるように、川辺の清掃など日頃から河川やその周辺の自然環境に配慮する活動を行っています。古河機械金属(株)環境保安管理部では、今後もホタルの再生活動を継続していくとともに、この川と池の中や、その付近に生息するあらゆる生物と一緒に生活することができる地域を目指して再生活動を行っていきます。

栃の巨木

愛知県北設楽郡豊根村の大沼山林(当社所有地内)には、山の守り神が宿る神聖な木として地元で長年崇拝されてきた栃の巨木(根回り:15.3m、胸高直径:7.48m、目通り:7.45m、樹高:32.5m、枝幅:46m、推定樹齢:数百年)があります。この栃の巨木は、毎年秋になると大きな実を付け、それらを集めてトチモチをつくるなど、地域の中で親しまれています。当社は2008年4月に愛知県豊根村の天然記念物に指定されたこの栃の巨木を大切に保護していきます。



旧久根鉦山跡地にしだれ桜を植樹

旧久根鉦山跡地では、ゲンジボタルの再生活動を積極的に行っている一方、しだれ桜の植樹活動も行っています。山梨県身延町にある身延山のしだれ桜の苗を2003年4月に植樹して以来、敷地内の一角をしだれ桜が観賞できる場所に是非したいという思いが実り、ここ数年はしだれ桜が咲き誇るようになりました。2012年4月初旬にも見事なしだれ桜が満開となりました。

